

### 3.5 北陸・甲信越地方E市における調査結果

#### 1) 木材・木製品製造：E-1 製材所

##### (1) 事業の概要

施設	棟数	生産品目	生産規模	備考
製材工場	1	板材等	—	木材加工工場の中間処理
木材加工工場	1	床材、構造木材	—	—

##### (2) 主な設備と稼働状況

設備	用途と稼働状況
加工機（帯鋸）	原木から板材への加工を行う。 工程に応じて複数種類あるが、順送りで使用している。
コンベヤ	製品の移動及び仕分けを行う。 板厚、グレードによる仕分けを行う。
コンプレッサ	工場内で使用する圧縮空気を供給する。 リザーバタンクがあるので、稼働率は低い。
乾燥機	用材の乾燥（現在は重油ボイラーによる熱を利用）。
加工機	板材への加工を行う。 節などの製品とならない部分をレーザー計測にて省く。
表面仕上げ	サンドペーパーによる表面加工を行う。
換気・集塵機	木材加工工場の換気及び粉塵の収集を行う。 加工を行っているときは常時稼働している。
チップパー	端材及び不具合品を細かく砕いてチップに加工する。

##### (3) 時間帯別の電力消費状況

- ・ 図 34 は製材工場、図 35 は木材加工工場の時間帯別電力消費量である。
- ・ 両工場とも工場の稼働日に電力消費量が多くなり、機器が稼働する昼間の操業時間帯に電力消費量が増加する山型の消費パターンを示す。
- ・ 工場が稼働しない日曜日や夏季・冬季休暇期間などは、昼間と夜間の差が少なく、1日を通じて電力消費量が少ない。

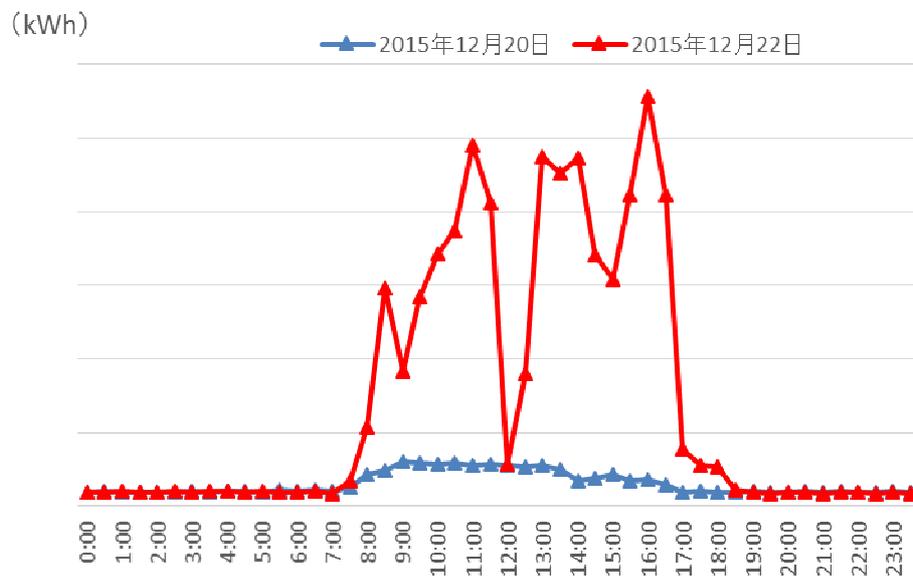


図 34 製材工場の時間帯別電力消費量

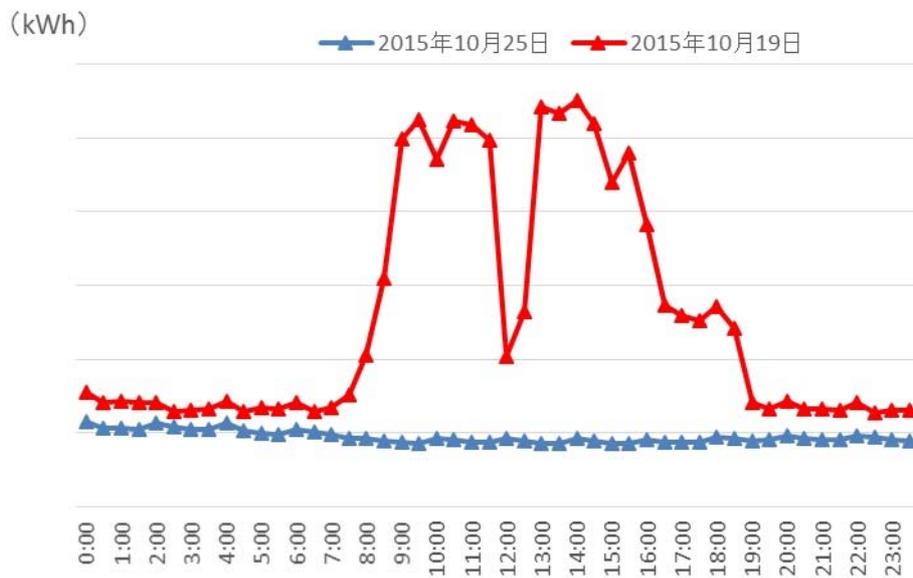


図 35 木材加工工場の時間帯別電力消費量

(4) 年間の事業サイクル及び電気・熱の消費状況

年間の事業サイクル・電力消費状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷は7月から11月が多いが基本的に通年で出荷を行っている。</li> <li>・材料により入荷量が少ない時期もある。(アカマツは夏季の入荷が少ない等)</li> </ul>
週/日毎の活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は月～金 8時～17時の作業を行っている。</li> <li>・将来的には24時間稼働を計画している。</li> <li>・8時半ごろから機械の稼働が開始する。</li> <li>・昼休み、終業の30分前には機械が止まる。</li> <li>・同時に機械が動くことはなく、順送りで稼働していく。</li> </ul>
熱を使用する設備
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥設備に重油を使用しているが、将来的にはバイオマス発電所からの熱供給に変更する計画がある。</li> </ul>

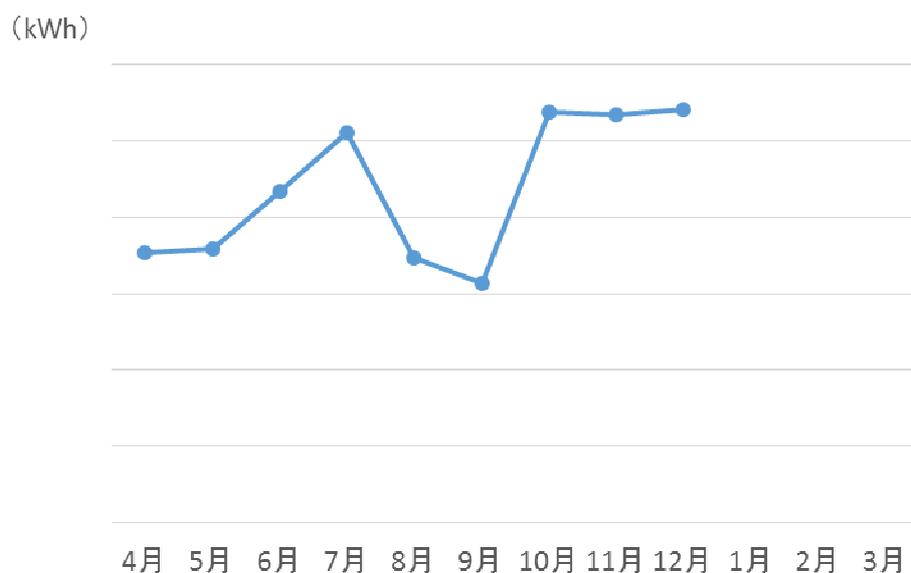


図 36 製材工場の年間電力消費量 (平成27年4月～12月)

(kWh)

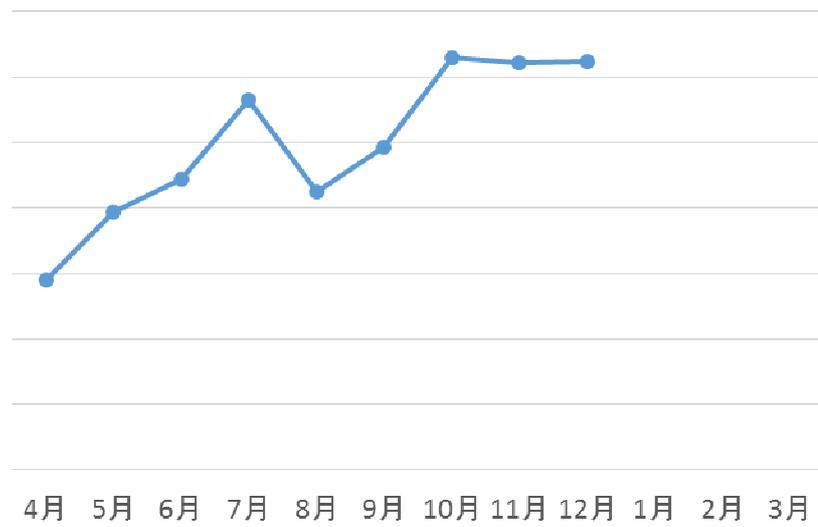


図 37 木材加工工場の年間電力消費量（平成 27 年 4 月～12 月）

(5) 再生可能エネルギー導入及び新電力について

<b>再生可能エネルギー設備の保有状況・興味</b>
・木質バイオマス発電所が稼働予定である。
<b>状況</b>
・用地の確保は終了している。 ・燃料の約 6 割は県内の間伐材、4 割は製材工場からの端材を予定している。
<b>再生可能エネルギー導入により期待される効果</b>
・間伐材、端材の高付加価値化。 ・製材工場での所内電力利用は現時点では考えていない。
<b>新電力について</b>
・現時点では新電力への切り替えは考えていない。

## 2) 木材・木製品製造：E-2 製材所

### (1) 事業の概要

施設	棟数	生産品目	生産規模	従業員数
工場	2	建築用木材、土木用木材	2,500 m <sup>3</sup>	9名
倉庫	2	—	—	
事務所	1	—	—	

### (2) 主な設備と稼働状況

設備	用途と稼働状況
製材機	4台。
暖房	事務所に設置。

### (3) 年間の事業サイクル及び電気・熱の消費状況

年間の事業サイクル・電力消費状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・注文に応じて作業が発生するため、決まった事業サイクルはなく、電力消費量は稼働量によって変化する。</li> <li>・繁忙期、閑散期はともにない。</li> <li>・冬季は事務所の暖房に電気を使用している。</li> </ul>
月/週/日毎の活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働日：平日と隔週土曜日。</li> <li>・休業日：隔週土曜日、日曜日、祝日。</li> <li>・就業時間：8～17時。</li> <li>・休憩時間：昼休み（12時～12時40分）と10時と15時15分に休憩がある。</li> </ul>
熱を使用する設備
<ul style="list-style-type: none"> <li>・なし。</li> </ul>

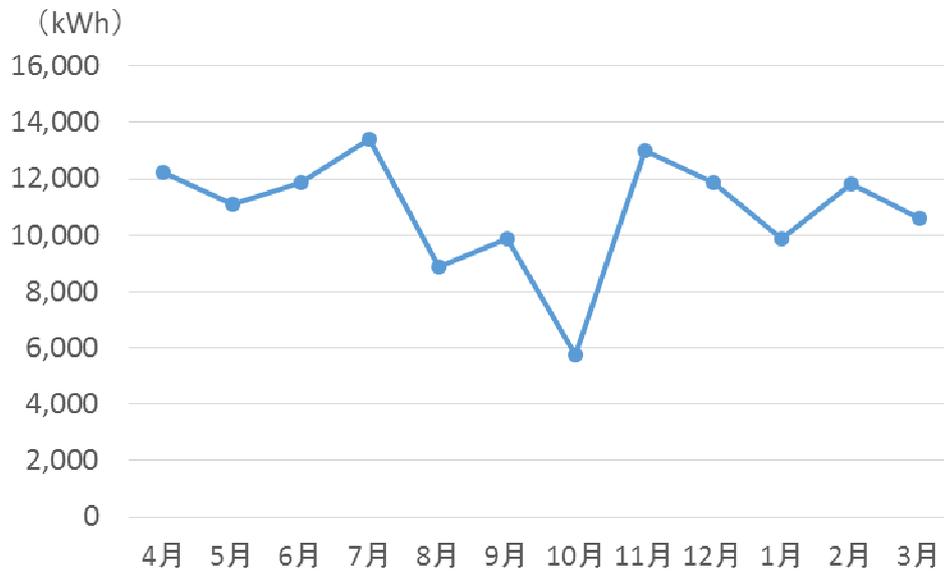


図 38 E-2 製材所の年間電力消費量

(4) 再生可能エネルギー導入及び新電力について

<b>再生可能エネルギー設備の保有状況・興味</b>
・太陽光発電設備の導入を検討したが断念した。
<b>断念した理由</b>
・資金調達が困難であったため、再エネ発電設備の導入ではなく本業への投資が適切と判断した。

### 3) 加工流通（米・果樹）：E-3 農協

#### (1) 事業の概要

施設	生産品目	生産規模	保有している施設
a 選果所	桃 梨 リンゴ	37t 580t 273t	ローラー台、保冷库、 空調機器
b ライスセンター	米	7.5t	乾燥調製機 5 台 コイン精米機、倉庫
c ライスセンター	米、麦	8t	乾燥調製機 7 台、ドライストア 6 台、コイン精米機、倉庫
d ライスセンター	米	15t	乾燥調製機 2 台、ドライストア 6 台、倉庫

#### (2) 主な設備と稼働状況

設備	用途と稼働状況
選別機	大きさや糖度により選別する。出荷時期は常時稼働する。
ローラー台	果実の搬送、箱詰めを行う。出荷時期は常時稼働する。
保冷库	出荷前の商品を保管する。出荷時期は常時稼働する。
乾燥調製機	集荷したもみを乾燥する。9月から10月の収穫時期は常時稼働している。
ドライストア	集荷したもみを乾燥させて長期間貯蔵する。9月から10月の収穫時期は常時稼働している。
コイン精米機	一般の人も使用可能な精米機（d ライスセンターにはない）。
倉庫	一時保管所。
冷蔵庫	夏の保管のための低温倉庫。

#### (3) 時間帯別の電力消費の傾向

##### ○ a 選果所

- ・ 午前 8 時半から施設が開所し、通常は正午までの稼働である。
- ・ 最盛期には午後まで稼働する場合もある。

##### ○ ライスセンター

- ・ 乾燥調製機の入れ替えのタイミングで負荷が高くなる。
- ・ 乾燥のタイミングは水分量によって異なる。投入しないと水分量が分からない場合が多い。
- ・ 入れ替えの時間は 1~2 時間ほど要する。

(4) 年間の事業サイクル及び電気・熱の消費状況

年間の事業サイクル・電力消費状況
<p>○ a 選果所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・果物の出荷時期により、夏季から稼働する。桃⇒梨⇒リンゴの順に出荷が始まり、秋ごろまでが出荷シーズンである。</li> <li>・梨とリンゴの出荷時期が重なる8月～9月が稼働のピークとなる。</li> </ul> <p>○ライスセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最盛期は9月～10月の中旬。(この間に乾燥調製機が稼働する)</li> <li>・保管は通年で行っており、夏季は冷蔵設備が稼働する。</li> </ul>
週/日毎の活動
<p>○ a 選果所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜日は基本的には休所するが、最盛期には稼働する場合がある。</li> <li>・市場が翌日開くため日曜日は稼働することが多い。</li> </ul> <p>○ライスセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最盛期は休みなしに稼働している。</li> </ul>
熱を使用する設備
<p>○ a 選果所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーブに灯油を使用している。</li> </ul> <p>○ライスセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・灯油ボイラーにより乾燥空気を供給している。</li> <li>・灯油の年間使用量はb・dライスセンターは各5,000L、cライスセンターは8,000Lである。</li> </ul>

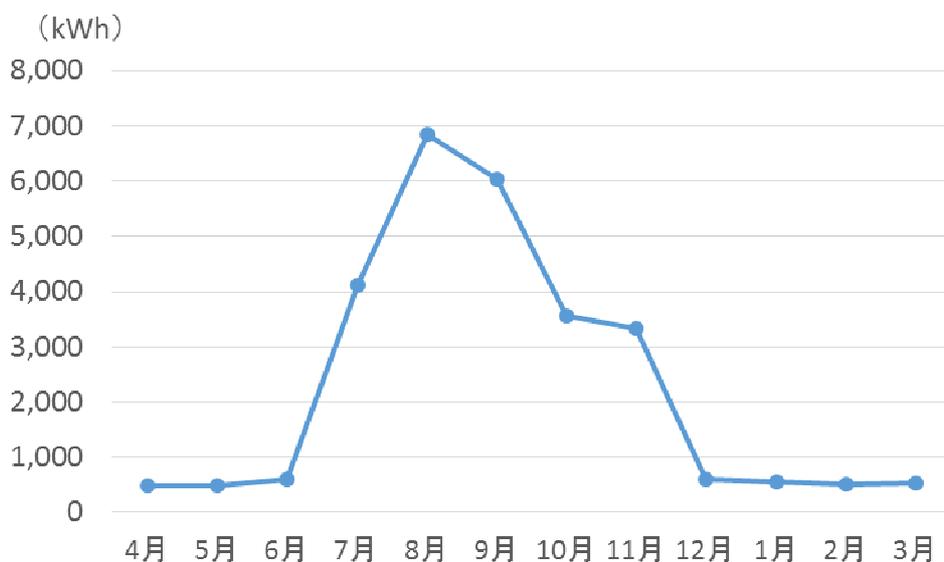


図 39 a 選果所の年間電力消費量

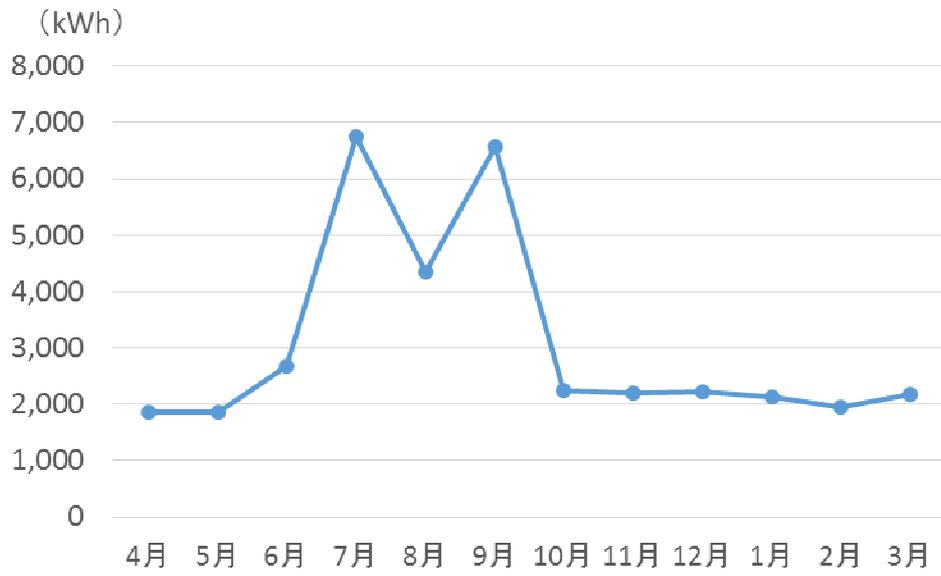


図 40 b ライスセンターの年間電力消費量

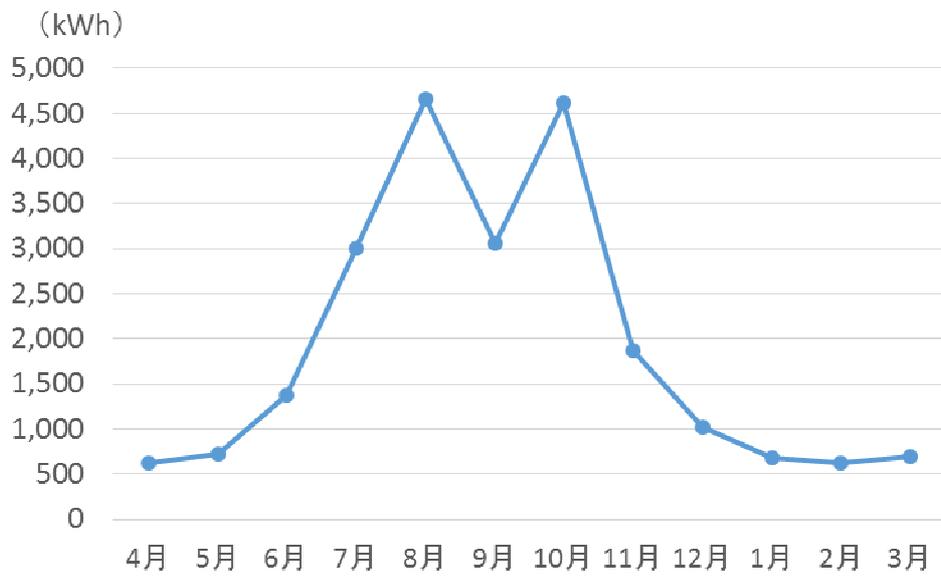


図 41 c ライスセンターの年間電力消費量

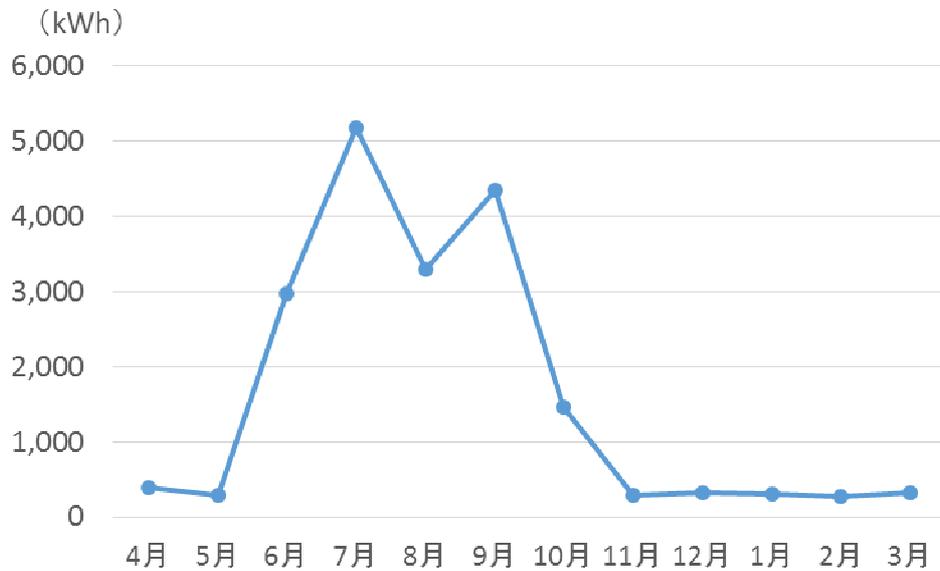


図 42 d ライスセンターの年間電力消費量

(5) 再生可能エネルギー導入及び新電力について

<b>再生可能エネルギー設備の保有状況・興味</b>
<input type="radio"/> a 選果所 ・太陽光発電設備（37kW）が既に稼働している。 ・発電した電力は全量売電している。 ・加えて 55kW の太陽光発電設備を設置する予定がある。 <input type="radio"/> ライスセンター ・もみ殻の処理が課題である。バイオマス発電などの活用方法があれば検討の余地がある。
<b>再生可能エネルギー導入により期待される効果</b>
<input type="radio"/> a 選果所 ・固定価格買取制度を利用した遊休施設の活用。 <input type="radio"/> ライスセンター ・特になし。
<b>再生可能エネルギー発電設備設置に必要なこと</b>
<input type="radio"/> a 選果所 ・大きな収益が見込めれば今後も発電設備を導入する可能性はあるが、ニーズは少ない。 <input type="radio"/> ライスセンター ・現時点では検討していない。
<b>新電力について</b>
・電気料金が削減されるのであれば、新電力からの電力の購入を検討する意向がある。

#### 4) 加工（果樹・野菜等）：E-4 加工所

##### (1) 事業の概要

施設	棟数	生産品目	生産規模	従業員数
加工場兼出荷所	1	ジュース、ジャム、ソース、味噌、漬物	年間売上高 1,500 万円	10 名

##### (2) 主な設備と稼働状況

設備	用途と稼働状況
冷凍冷蔵庫	業務用ではあるが、家庭用よりも若干大きい程度の大きさである。
ジュースサー	—
圧縮機	—
真空パック	—

##### (3) 年間の事業サイクル及び電気・熱の消費状況

年間の事業サイクル・電力消費状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 果物や作物の収穫後に加工の作業を行う。</li> <li>・ 秋季から春季にかけての繁忙期には果物加工と味噌作りを行うため、電力消費量が増加する。</li> <li>・ 味噌作りが終了する 5 月から果物の収穫が始まる 7 月までは閑散期となる。</li> </ul>
週／日毎の活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繁忙期には休みなく作業を行う場合もあるが、果物の収穫がない時期は稼働が無い日がある。</li> <li>・ 基本的には日曜日は休業日である。</li> <li>・ 就業時間は基本的には 8 時 30 分～17 時だが、作業量次第である。昼過ぎに終了する日もあれば、夜間までかかる場合もある。</li> </ul>
熱を使用する設備と費用
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 味噌の製造時（蒸煮）にガスを使用する。</li> <li>・ ガス使用量は月の作業量によって変わる（月のガス料金は 2 万円～10 万円）。</li> </ul>

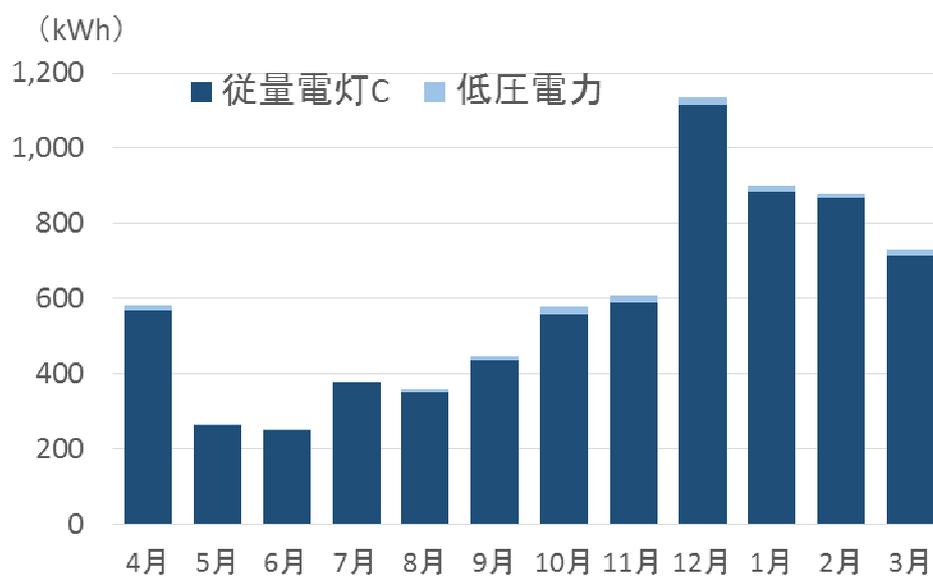


図 43 E-4 加工所の年間電力消費量

(4) 再生可能エネルギー導入について

<b>再生可能エネルギー設備の保有状況・興味</b>
・なし。
<b>その他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・山あいの立地のため、日照時間が短い。</li> <li>・小規模の加工場のため再エネ発電設備の導入は検討したことがない。</li> </ul>

5) 流通（野菜）：E-5 農協

(1) 事業の概要

施設	棟数	用途	容量	備考
本部予冷施設	1	野菜の予冷	5,000 ケース	取扱品目は主に葉物野菜（レタス）

(2) 主な設備と稼働状況

設備	用途と稼働状況
急速予冷庫	農家が入庫した野菜をケースに積み、5℃まで急速予冷する。 800 ケースを同時に約 30 分でバッチ処理する。 冷凍機、コンプレッサがある。
保管庫	予冷庫で予冷後、出荷まで保管する施設。 96 パレット、5,000 ケースが保管可能。

(3) 年間の事業サイクル及び電気・熱の消費状況

年間の事業サイクル・電力消費状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>レタスの出荷は 5、6、9、10 月がピークである。</li> <li>7、8 月はキャベツの出荷を行う。</li> <li>冬季は一部のみの稼働である。</li> </ul>
週／日毎の活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的に出荷期間は無休で出荷する。</li> <li>天候により収穫量が少ない時もあり、稼働が落ちる場合もある。</li> <li>朝から 11 時までには野菜の持ち込みを行い、15 時から出荷する。</li> <li>17 時に再度入荷した野菜は、予冷せずに保管を行い、翌日出荷する。</li> </ul>
熱を使用する設備
<ul style="list-style-type: none"> <li>なし。</li> </ul>

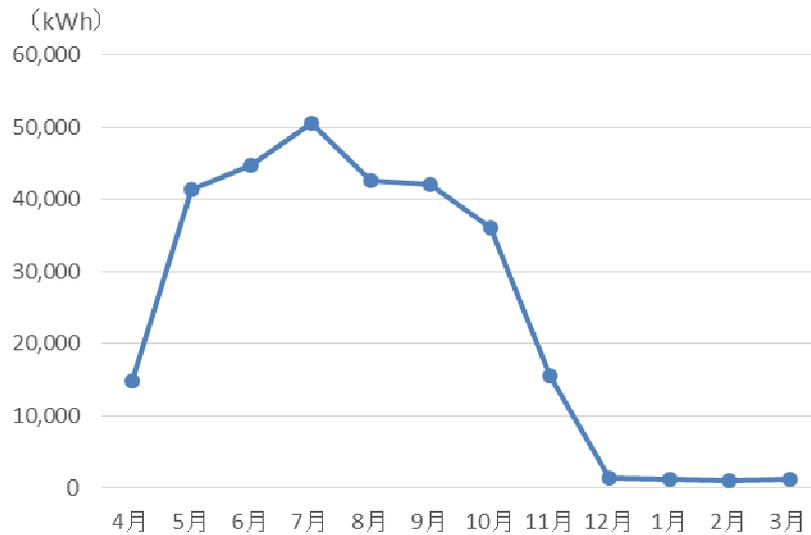


図 44 本部予冷施設の年間電力消費量

(4) 再生可能エネルギー導入及び新電力について

<b>再生可能エネルギー設備の保有状況・興味</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本部の屋根に太陽光発電設備（40kW）を設置している。</li> <li>・発電した電力は全量売電している。</li> <li>・現状以上の計画は現在ない。</li> </ul>
<b>その他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作を止め、畑に太陽光発電設備を設置した農家もいる。</li> <li>・自宅の屋根に太陽光発電設備を設置する農家は増加しており、屋根貸しでの設置もある。</li> <li>・基本的に熱の使用はないので、電気料金を如何に削減するかが重要である。</li> </ul>
<b>再生可能エネルギー導入により期待される効果</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・収益源としての効果。</li> </ul>
<b>再生可能エネルギー発電設備設置に必要なこと</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に計画していない。</li> </ul>
<b>新電力について</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中部電力から節電等のアドバイスを受けている。恩もあるため、現時点で新電力への変更は考えていない。</li> </ul>

6) 施設野菜：E-6農場

(1) 事業の概要

施設	建物	生産品目	その他
栽培用ハウス	20aのハウスが2棟	トマト	水耕栽培

(2) 主な設備と稼働状況

設備	用途と稼働状況
ハウス内環境制御システム	温度や湿度をモニタリングし、ハウス内の環境を一定に保つ。 24時間稼働している。屋根の開閉や自動遮光カーテン・ボイラーの作動をコンピューターで制御する。 電力消費量が多いのは、環境制御用システムである。
自動液肥装置	液体肥料を自動投入する。
井戸水汲上ポンプ	—
ファン	換気扇。
選果機	出荷作業時にトマトの重量を測定する。 稼働時間は9時30分～12時頃までである。
暖房機	燃料は重油と灯油だが、稼働時に電力を消費する。
電灯（蛍光灯）	出荷作業時に照明需要がある。

(3) 年間の事業サイクル及び電気・熱の消費状況

<b>年間の事業サイクル</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月10日前後：作付け。</li> <li>・9月上旬：出荷開始。</li> <li>・6月20日以降：つる上げ。（収穫終了）</li> </ul>
<b>週／日毎の活動</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・休日はあるが、コンピューター管理は24時間行っている。</li> </ul>
<b>熱を使用する設備</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・加温用ボイラーに重油（ハウス内の加温用）と灯油（苗の根元に流す温水用）を使用している。</li> </ul>

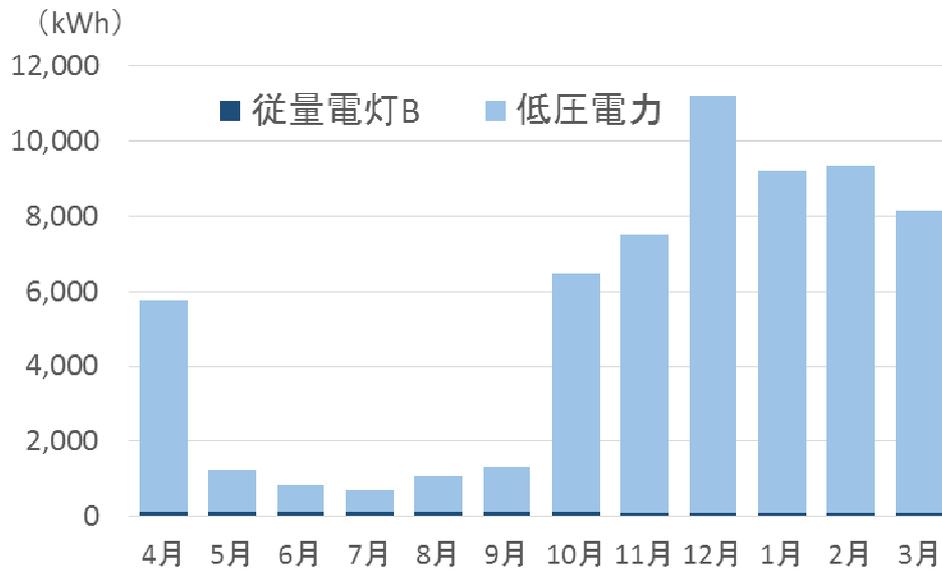


図 45 E-6 農場の年間電力消費量

(4) 再生可能エネルギー導入について

<b>再生可能エネルギー設備の保有状況・興味</b>
・太陽光発電設備、風力発電設備を検討したが断念した。
<b>断念した理由</b>
・農場設立時（8年前）に検討したが、発電した電力を熱に変えて使用するにはコストがかかるため。
<b>その他</b>
・ハウス加温用の熱源には重油や灯油を使用している。

## 7) 施設野菜：E-7 農園

### (1) 事業の概要

施設	棟数	生産品目	規模	備考
ビニールハウス	1	イチゴ	2,600m <sup>2</sup>	30m の畝が 12 本

### (2) 主な設備と稼働状況

設備	用途と稼働状況
電熱線ヒーター	すべての畝に設置している。夜間も含め夏季以外はほぼ常時稼働しているため、電気料金の大部分を占めている。
暖房機	ハウスの温度を保つ。基本的にはガス（プロパン）であるため、電力消費量は少ない。
ファン	循環扇。加温した空気がハウスで滞留しないようにする。
井戸水ポンプ	水やり用のポンプ（2 t/日）。稼働時のみ電力を消費する。
電灯	12 月は夜間も点灯し、育成を早める。

### (3) 年間の事業サイクル及び電気・熱の消費状況

年間の事業サイクル・電力消費状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6 月に最終出荷があり、そこから植え替えて 8 月から新しい苗がそろう。</li> <li>・ 出荷は 12 月が多いが、収穫は気候の関係もあり 3 月が最も多い。</li> </ul>
週／日毎の活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収穫期は土日もなく収穫、出荷を行っている。</li> </ul>
熱を使用する設備
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 暖房機にプロパンガスを使用している。</li> </ul>

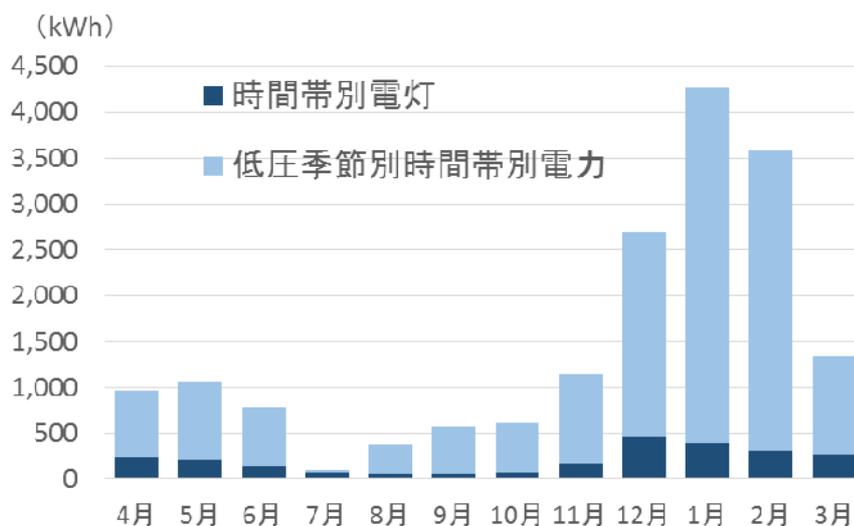


図 46 E-7 農園の年間電力消費量

(4) 再生可能エネルギー導入及び新電力について

再生可能エネルギー設備の保有状況・興味
・なし。
状況
・電気料金の負担は大きいので、削減につながることであれば興味はある。
再生可能エネルギー導入により期待される効果
・なし。
再生可能エネルギー発電設備設置に必要なこと
・なし。
新電力について
・現時点で新電力への変更等は考えていない。

3.6 北陸・甲信越地方F市における加工流通（米・麦・野菜）、育苗（水稻）：F-1  
農協

(1) 事業の概要

施設	設備	生産品目	年間出荷数	労働人数	備考
a 集荷場	選果機	西瓜	10,897 ケース	60 人	箱詰めまでを行い、その後すぐに出荷を行う。貯蔵は行っていない。
		大根	76,360 ケース	30 人	
b ライスセンター	乾燥調製機、もみすり機、昇降機、コンベア	米	800t	8 人	米の乾燥、調整、出荷を行う。
c ライスセンター	乾燥調製機、もみすり機、昇降機、コンベア	米	玄米換算 400t	8 人	米の乾燥、調整、出荷と大麦の調整、出荷を行う。
		大麦	乾燥大麦 60 t	2 人	
d カントリーエレベーター	乾燥調製機、もみすり機、貯蔵（サイロ）、昇降機、コンベア	米	玄米換算 1,200 t	12 人	米の乾燥、貯蔵、調整、出荷を行う。乾燥したもみ米をサイロに入れて貯蔵する。
シードプラント	乾燥調製機	大麦	乾燥大麦 60t	2 人	大麦、もみ米（種子）、ハトムギの乾燥とそばの乾燥と調整を行う。
		もみ米（種子）	乾燥もみ（種子） 270t		
		そば	1.3t		
		ハトムギ	ハトムギ原穀 14 t		
e 乾燥場	乾燥調製機、コンベア	もみ米（種子）	乾燥もみ（種子） 180t	2 人	もみ米（種子）の乾燥を行う。
f 育苗センター	播種調製機、水槽ポンプ、ホイスト他	水稻苗	90,000 箱	10 人	水稻苗の播種作業（育苗箱に種を蒔く）を行う。育苗箱のまま出荷するものと高苗の2種類がある。
g 育苗センター	播種機、水槽ポンプ、ホイスト他	水稻苗	95,000 箱	10 人	水稻苗の播種作業（育苗箱に種を蒔く）を行う。育苗箱のまま出荷するものと高苗の2種類がある。空調はない。

## (2) 主な設備と稼働状況

設備	用途と稼働状況
選果機	重量、大きさ等により野菜を選別する。
乾燥調製機	集荷した米を乾燥する。9月から10月の収穫時期は常時稼働している。
もみすり機	もみ殻を取り除いて玄米にする。
昇降機	米を上下に昇降させて次工程に運ぶ。
コンベア	乾燥させた米をタンクに運ぶ。
播種機	種を蒔く時に使用する。
水槽ポンプ	水を送るポンプ。
ホイスト	米が入った袋を吊り上げる。

## (3) 年間の事業サイクル及び電気・熱の消費状況

ライスセンター及びカントリーエレベーター、シードプラント、e 乾燥場については、繁忙期に臨時電力契約による電力供給を受けている。

### ① a 集荷場

年間の事業サイクル
・西瓜：出荷サイクル 7月1日～20日頃、繁忙期 7月10日頃 ・大根：出荷サイクル 10月10日～11日11日頃、繁忙期 10月20日頃 ・電力契約の変更は過去3年行っていない。
週／日毎の活動
・西瓜：年間施設稼働日 18日 ・大根：年間施設稼働日 25日
熱を使用する設備
・なし。

## ② b ライスセンター

<b>年間の事業サイクル</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・繁忙期は8月中旬～10月上旬。繁忙期は無休。</li> <li>・電力契約の変更は過去3年行っていない。</li> </ul>
<b>週／日毎の活動</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・8時から18時まで稼働している。</li> <li>・繁忙期は無休。</li> <li>・コンベアで乾燥調製機の中に米を投入する（2～3日間、夜間も稼働する）</li> </ul>
<b>熱を使用する設備</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥調製機の熱源は電気である。</li> </ul>

## ③ c ライスセンター

<b>年間の事業サイクル</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・米の繁忙期は8月中旬～10月上旬。</li> <li>・大麦の繁忙期は6月中旬～7月上旬。</li> <li>・電力契約の変更は過去3年行っていない。</li> </ul>
<b>週／日毎の活動</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・8時から18時まで稼働している。</li> <li>・繁忙期は無休。</li> <li>・コンベアで乾燥調製機の中に米を投入する（2～3日間、夜間も稼働する）。</li> <li>・大麦場合、調整（グレード選別）と出荷工程の稼働時間は日中のみである。</li> </ul>
<b>熱を使用する設備</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥調製機の熱源は電気である。</li> </ul>

## ④ d カントリーエレベーター

<b>年間の事業サイクル</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥：8月中旬～9月下旬、貯蔵・調整：～翌年6月、出荷：通年行う（もみすり出荷）</li> <li>・電力契約の変更は過去3年行っていない。</li> </ul>
<b>週／日毎の活動</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・8時から18時まで稼働している。</li> <li>・繁忙期は無休。</li> <li>・コンベアで乾燥調製機の中に米を投入する（2～3日間、夜間も稼働する）。</li> </ul>
<b>熱を使用する設備と費用</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥調製機に灯油を使用している。</li> <li>・平成26年度の灯油の購入費用は4,701,692円。</li> </ul>

### ⑤ シードプラント

<b>年間の事業サイクル</b>
・大麦 6月上旬～中旬、水稻 8月中旬～10月上旬、そば 10月～11月、ハトムギ 10月～11月 ・電力契約の変更は過去3年行っていない。
<b>熱を使用する設備と費用</b>
・乾燥調製機に灯油を使用している。 ・平成26年度の燃料費用は757,050円。

### ⑥ e 乾燥場

<b>年間の事業サイクル</b>
・繁忙期：8月中旬～10月上旬。 ・電力契約の変更は過去3年行っていない。
<b>週／日毎の活動</b>
・8時から18時まで稼働している。 ・繁忙期は無休。 ・コンベアで乾燥調製機の中にもみ米を投入する（2～3日間、夜間も稼働する）。
<b>熱を使用する設備と費用</b>
・乾燥調製機に灯油を使用している。 ・平成26年度の灯油の購入費用は458,172円。

### ⑦ f 育苗センター

<b>年間の事業サイクル</b>
・繁忙期：3月下旬～4月中旬
<b>熱を使用する設備と費用</b>
・芽出しまでの温度調整設備（ボイラー、蒸気）に灯油を使用している。 ・平成26年度の灯油の購入費用は527,665円。

### ⑧ g 育苗センター

<b>年間の事業サイクル</b>
・繁忙期：3月下旬～4月中旬 ・秋季は大豆の乾燥を行っている。
<b>熱を使用する設備と費用</b>
・芽出しまでの温度調整設備（ボイラー、蒸気）に灯油を使用している。 ・平成26年度の灯油の購入費用は473,842円。

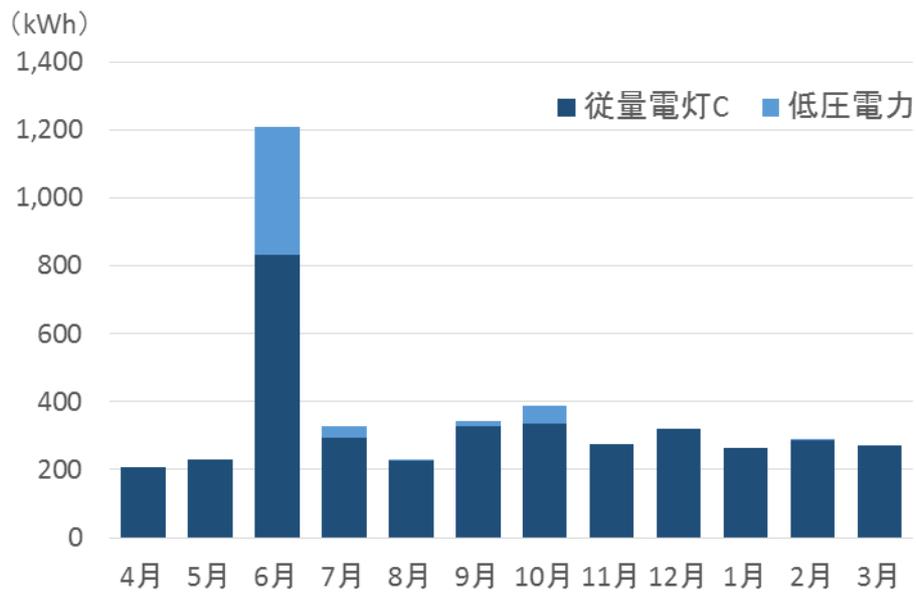
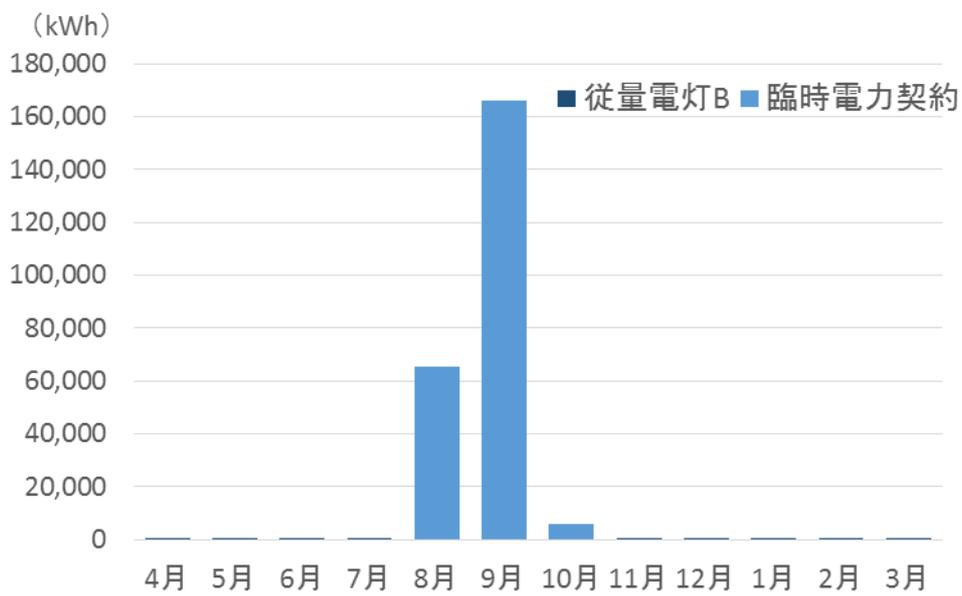
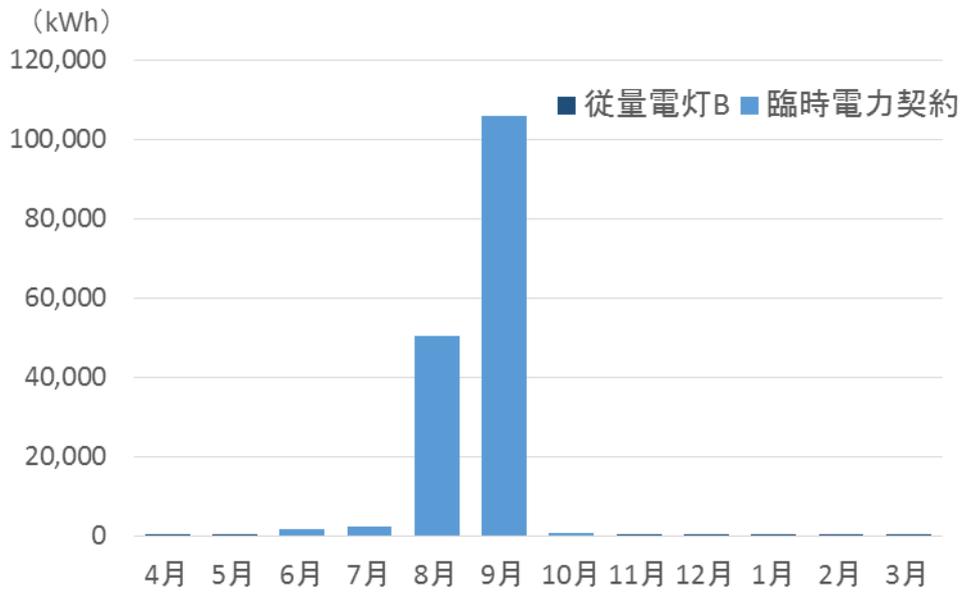


図 47 a 集荷場の年間電力消費量



※b ライスセンターの従量電灯 B は、10~44kWh で推移している。

図 48 b ライスセンターの年間電力消費量



※ c ライスセンターの従量電灯 B は、6~72kWh で推移している。

図 49 c ライスセンターの年間電力消費量

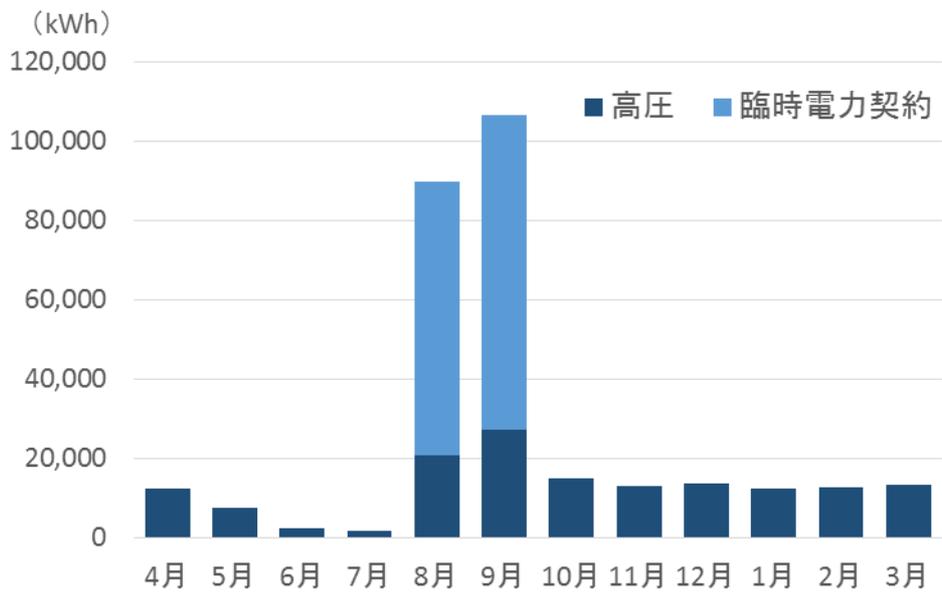


図 50 d カントリーエレベーターの年間電力消費量

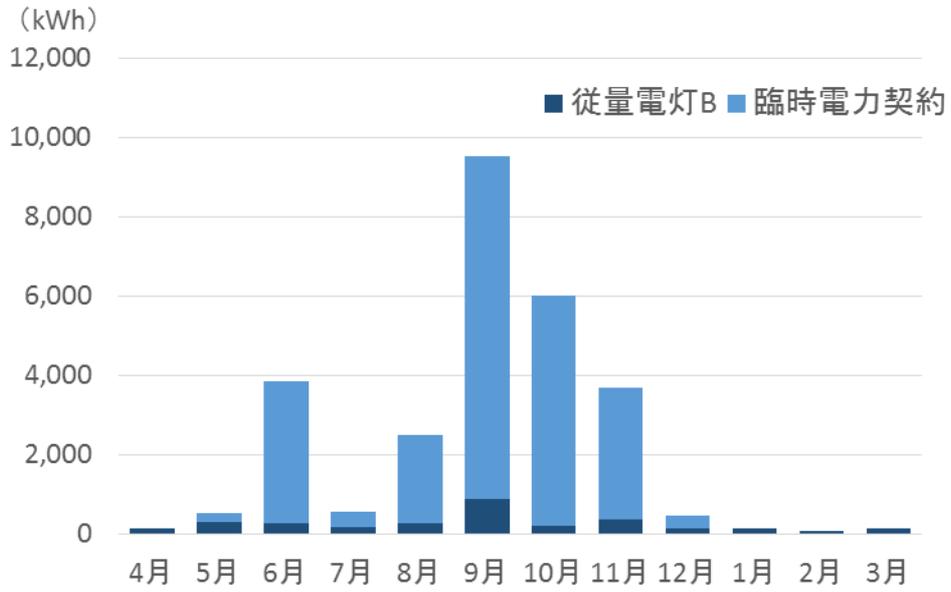


図 51 シードプラントの年間電力消費量

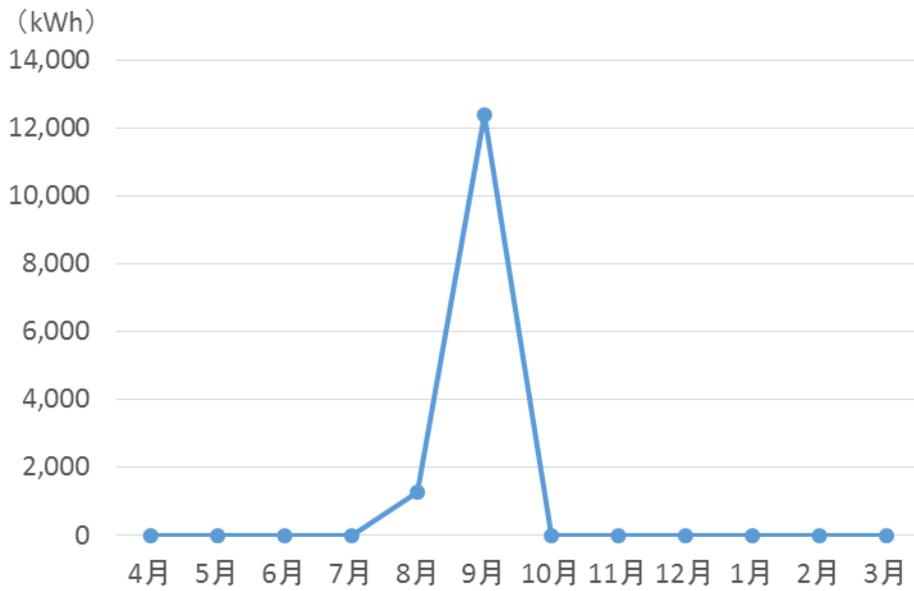


図 52 e 乾燥場の年間電力消費量

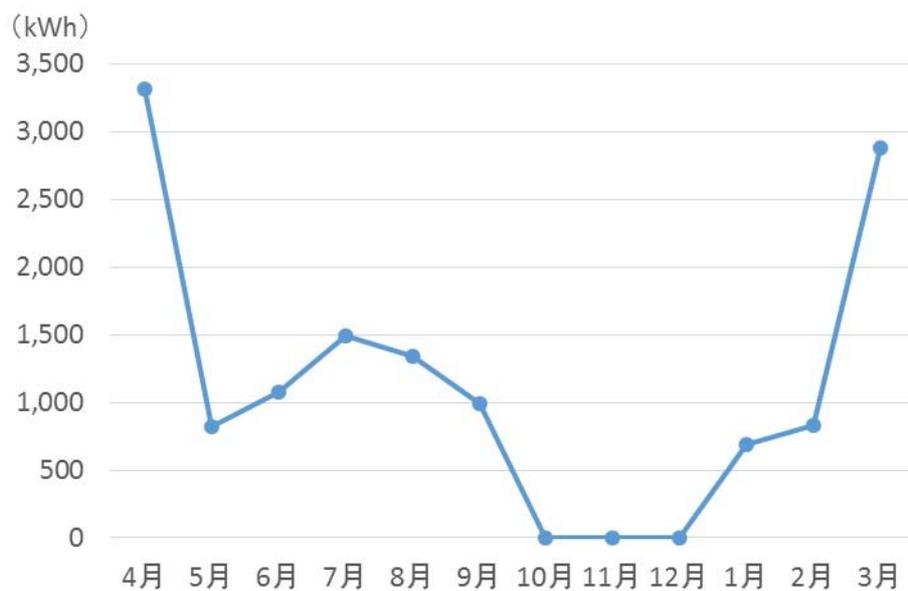


図 53 f 育苗センターの年間電力消費量

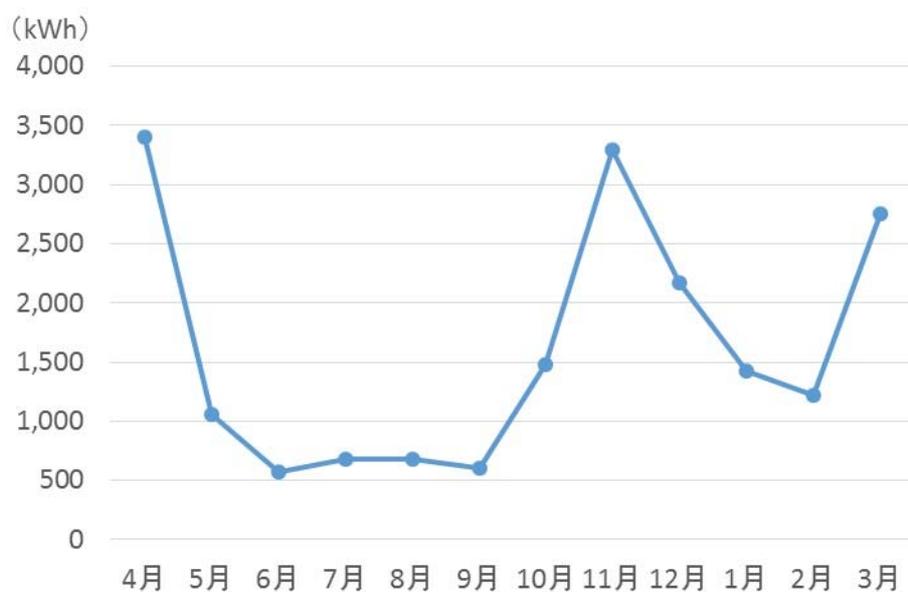


図 54 g 育苗センターの年間電力消費量

#### (4) 再生可能エネルギー導入について

<b>再生可能エネルギー設備の保有状況・興味</b>
・現在検討中である。
<b>検討状況</b>
・設置目的は遊休地の有効利用である。 ・子会社を通して 2MW のメガソーラーを建設している。 ・資金は農林中央金庫の再エネファンドで賄う。 ・耕作放棄地を借りて太陽光発電事業を行う。
<b>設置にあたり苦労した点</b>
・土地交渉、資金調達。